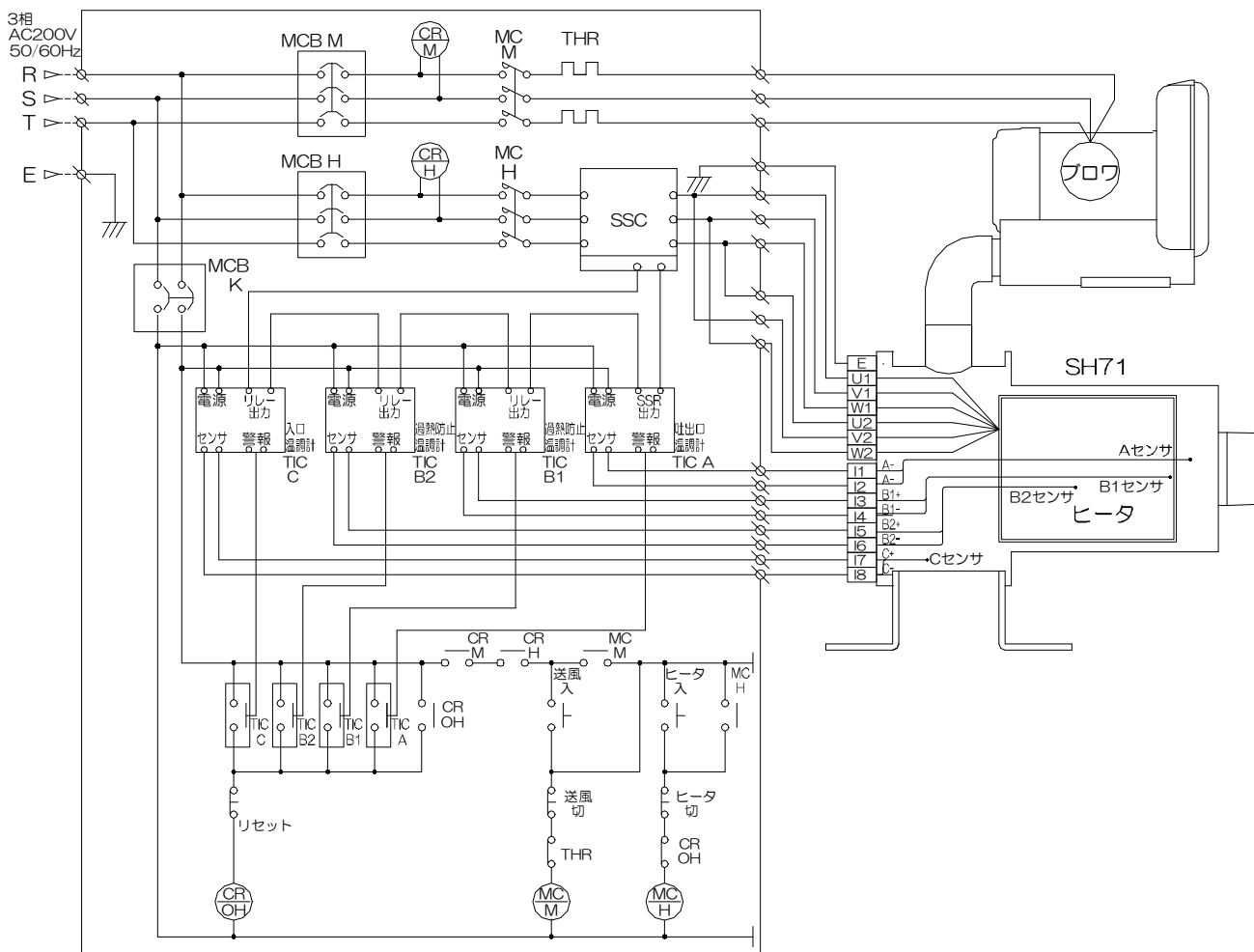


スーパーヒータ SH71 参考回路例 (フロー図)

この度は、弊社スーパーヒータをご検討いただきまして、誠にありがとうございます。
スーパーヒータSH71の制御回路および送風源を自社設計されるお客様は本回路例を参考にして、
用途に応じた回路を設計してください。

● SH71 参考回路例 (フロー図)



◆安全回路

- 必ずAセンサによる吐出口の熱風制御をおこなってください。B1、B2センサによる吐出口の温度制御はできません。
- スーパーヒータの過熱防止センサ(B1、B2、C)を必ず安全回路に組み込んでください。安全回路が動作した場合または制御回路の通電が遮断された時、必ずヒータ電源を遮断する回路を組み込んでください。
- スーパーヒータへ送風せずにヒータ電源を供給すると空焚きとなり異常過熱により断線します。送風機とのインターロックは必ず組み込んでください(ホットスタート運転は「温調ユニットTCUシリーズ」以外の制御機器でおこなわないでください)。
- B1、B2センサを使用し、過熱防止機能以外にもヒータ内部温度の確認(表示)をおこなってください。流量が少ない場合、蓄熱しヒータ内部が高温となりヒータ断線等のトラブルが発生する場合があります。
- スーパーヒータは3相仕様となります。単相電源による運転はヒータ断線の原因になります。

◆注意

- 温度センサ配線(A、B1、B2、C)はノイズ等による誤動作を避けるため、電力線、動力線、高周波線とは別に配線してください(シールド処理をおすすめします)。また配線は必ず補償導線を使用してください。
- 参考回路例のようにSSC、サイリスタ制御等の半導体素子を用いて制御をおこなう場合、ヒータに漏れ電流が流れています。感電防止の為に、停止時には電磁接触器やブレーカなどで電源を遮断する回路構成を必ずおこなってください。
- 過熱防止回路動作時は最終安全回路として電圧引き外し装置または、電磁接触器を用いてヒータ回路を遮断してください。
- 電源は専用回路を設け、十分な容量を確保してください。
- 電源線、ヒータ線は所要容量と長さを考慮して決定してください。
- 「温調ユニットTCUシリーズ」以外でのヒータ断線・損傷は保証範囲外となります。また、「温調ユニットTCUシリーズ」以外での、ホットスタート運転はおこなわないでください。